

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105750
法人名	有限会社イヨメディカル
事業所名	グループホームみゆき2
所在地	松山市北斎院町947-1
自己評価作成日	平成28年6月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年8月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

散歩を通じて、地域の方々と交流を図り、ホームに気軽に足を運んで頂けるよう努めている。また入居者一人一人は地域の一員としてホームで生活を送れるよう努めている。一人一人は自分のペースで充実した毎日を送れるよう、日頃から密に関わりを持ち、入居者の希望や要望を一つでも多く具現化していけるよう努めている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●玄関までのアプローチには、花や緑を整備している。室内は職員が掃除を行っており、行き届いていた。
●6月に管理者の交代があった。管理者は「職員で考えながら変えていけるようにしたい」と話しており、職員とケアに取り組みながら、意見や提案を聞いている。又、管理者からも提案をして、ミーティングで話し合いながら取り組みをすすめている。勤務希望等を探り入れて働きやすい職場作りに努力している。法人全体で職員のストレスチェックを行った。
●ごみ出しの際には、近所の方達との交流がある。事業所で行う夏祭りには近所の方も参加しており、差し入れてくれるような方もいる。又、利用者と仲良くなった近所の方が、時々話をしに来てくれる。近くに住む一人暮らしの高齢者と交流があり、体調不良時に救急車を手配してあげたようなこともあった。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

有限会社 イヨメディカル

(ユニット名)

グループホーム みゆき2 (2F)

記入者(管理者)

氏 名

嶋屋 浩典

評価完了日

H 28 年 6 月 20 日

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 介護業務をする上での理念に基づき、思いやりや温もりと心 のやすらぎが得られるよう家庭的なホームを目指して実践し ている。また、ミーティングを通じて統一したケアが行えるよう 意識統一を図っている。	
			(外部評価) 家訓に基づき「笑顔で！優しく！親切に！」と目標を作っ ており、居間や階段、スタッフルームに掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 地域行事への参加、ホーム行事への案内(夏まつり)、運営 推進会議、回覧板、ゴミ出し場所清掃、散歩時交流、町内会 費、地域の商業施設の利用、河川敷の除草、地域社会資源 の協力依頼等を通して地域の方々が気軽に足を運んで下さ るよう努めている。	
			(外部評価) ごみ出しの際には、近所の方達との交流がある。事業所で 行う夏祭りには近所の方も参加しており、差し入れしてくれ るような方もいる。又、利用者と仲良くなった近所の方が、時々 話をしに来てくれる。近くに住む一人暮らしの高齢者と交流 があり、体調不良時に救急車を手配してあげたようなことも あった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議や防災訓練などに参加して頂く事によって、 近況報告や現在会社で問題になっているテーマを取り上げ 具体的事例の発表をさせて頂いている。また地域の方々に 施設内の様子や入居者を知って頂ける場を設け、交流にも 力を入れている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し 合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活 かしている	(自己評価)	
			二か月に1回開催している運営推進会議の中で、近況報告 やミーティングで話し合った事も伝える。家族や地域の方々 の意見を真摯に受け止め、質の良いケアを提供出来るよう に取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでい る	(外部評価)	
			地域の方との関係作りを目指して会議を行っている。会議に は、町内会長や民生委員、家族が参加しており、事業所から 利用者や活動の状況を報告している。地域の方は、町内の 活動の現状等を話してくれる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し ており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない ケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			身体拘束ゼロを掲げ、施設全体で身体拘束廃止に向け密 に話し合い取り組んでいる。	
			(外部評価)	
			外部研修で身体拘束や虐待について勉強した職員が、 ミーティング時に口頭で報告している。一人で出かけて行っ た利用者があり、現在は、ユニットの出入り口や玄関に鍵を かけているが、安全と自由の両面から利用者の立場に立ち、 暮らしのあり様について点検してみてほしい。鍵をかけること の弊害についても、職員で話し合ってみてほしい。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 外部研修やミーティング内の研修発表を通じて虐待防止について知識を深めている。また、ホーム内での言葉使いや態度など意識を高め虐待に繋がらないよう注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 外部研修に参加し知識を深める努力をしている。運営推進会議や家族会時に資料を配布するなど努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所の見学時や申し込み時に家族が納得して下さるまで丁寧に説明させて頂き安心して入所して頂けるよう誠心誠意対応させて頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議・家族会・行事への参加時・面会時・電話・意見箱・介護記録・金銭出納帳の閲覧等でコミュニケーションを取りながら、意見や要望に耳を傾け、真摯に対応している。 (外部評価) 夏祭り等の行事時には案内して参加を呼びかけている。運営推進会議の後、家族に集まってもらい「家族会」を行い、「不安や不満に思っていること」等を聞き取っている。「みゆき2便り」は行事時の写真を載せて年2回発行している。今後はホームページを開設して情報発信していく予定がある。	 外部評価に際しての家族アンケート結果も参考にして、家族との関係作りについて工夫ある取り組みをすすめてほしい。家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行ってほしい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			ミーティングの時現在問題になっているテーマを取り上げて話し合う時間を設けている。改善点や解決方法を自分たちで見出し、質の良いケアが提供出来るよう取り組んでいる。	
			(外部評価)	
			6月に管理者の交代があった。管理者は「職員で考えながら変えていけるようにしたい」と話しており、職員とケアに取り組みながら、意見や提案を聞いている。又、管理者からも提案をして、ミーティングで話し合いながら取り組みをすすめている。勤務希望等を採り入れて働きやすい職場作りに努力している。法人全体で職員のストレスチェックを行った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			研修や勉強会への参加や各職員の力量を見極め役割を設ける事で、職員の意欲向上を図り、特別手当及び昇給等を設けている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実績と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			研修の案内を掲示し、その職員の力量に見合った研修に参加することで、職員又は職場のレベルアップに努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	
			系列の施設内で外出や行事の参加する事によって交流が図れている。それ以外の同業者との交流は、研修、包括支援センター等で会議、発表会の活動を通じて情報交換している。今後更に同業者との交流を深めていけるよう努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			利用者が入所してからホームでの生活に慣れるまで職員が常に側に寄り添い、思いや気持ちを全て受け止め、安心して過ごしていただけるよう配慮している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の想いや気持ち等全てに尊厳を持って傾聴し受け止め、家族が徐々に心を開き関係作りに功を奏している。また、密に連絡を取り、家族にも安心して生活して頂けるよう心掛けている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人の状態を日常生活の中からよく観察し、本人や家族と確認し合いながら今何が必要かを見極め迅速に対応している。特変状態があった場合には電話で報告し連携を取り合っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活の中で本人が好きな事・昔からやっていた事など本人や家族から十分情報を集め掃除、洗濯物干し、たたみ、野菜の皮むき等、職員と一緒にして(時には教えていただく事も多い。)その他残存能力を活かして出来る事は本人にして頂くよう取り組んでいる。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の想いや考えを受け止め日々の生活の中で生かしていけるよう努力している。状態の変化があった場合には、密に連絡を取り情報の共有に努め家族からも信頼していけるよう心掛けている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会で来所された時には日々の様子をお伝えし、ホームでの様子を把握して頂けるよう努めている。また面会時に家族から本人の表情や家族からの要望など伺い、また面会に来て下さるよう声掛けなど配慮している。 (外部評価) 利用者が以前によく買い物に行っていたショッピングセンターに買い物に出かけたり、以前行った事のある花の名所に出かけるようなこともある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人ひとりの日常生活の様子を把握し、レクや行事その他あらゆる場面で利用者と職員お互いがコミュニケーションを深め、より良い関係が出来るよう寄り添う介護を目指して取り組んでいる。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 可能な限り相談・支援を行い、サービスが終了してからも安心した生活が送れるように努める。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人一人の思いや希望を日常生活の会話の中から引き出し、職員全員で情報共有を行い実現出来る様に努める。	
			(外部評価) 利用者、家族からのケアや暮らしについての意向は、一つにまとめており、意思表示が難しいような利用者については家族の意向に偏りがちになっている。	意思の表出が難しい方についてのアセスメントに工夫してほしい。利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境等の情報を整理して介護計画に活かしてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族・関係者からの情報を十分に理解し、ホームの生活でも馴染みの暮らしが継続出来るよう十分話し合いを行い、安心した生活が送れるように心掛けている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の生活リズムや活動内容を職員全員が把握できるようにカンファレンスや申し送りを重ね全体像を把握するように取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			本人・家族・職員の情報を元にカンファレンスで密に話し合い本人の想いや希望を実現出来るように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(外部評価)	
			介護計画について毎月話し合い、モニタリングを行う仕組みがあり、半年ごとに見直しを行っている。介護計画は、現在、申し送り時に内容を伝えるようになっているが、さらに、計画内容をすべての職員で把握・理解し、共有するような仕組みを作ってほしい。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			体調不良時や検査のための受診、入退院時に家族に代わって付き添ったり、緊急時には24時間迅速な対応をしたり、その他衣替え・買い物・外出等、個々の希望に家族と相談しながら職員が代行することが多い。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			散歩を通じて挨拶をし、野菜を収穫した時には近所の方々に配ったりしている。反対に野菜を頂いたりして日頃から関わりを持っており、ホームの行事や地域の行事を行き来している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人と家族の意見・要望を密に相談を行い、希望する医療機関で受診できるように支援している。また、主治医による二週間に一回の往診、緊急時には迅速に対応出来るよう連携も整っている。	
			(外部評価) 看護職員を配置しており、24時間いつでも相談できるような体制を作っている。受診支援は、家族と協力し合って支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 日常生活の中で一人ひとりの変化に気づき看護師と共に職員全員が変化・対応方法等の情報を共有し統一したケアが行えるように努めている。また、看護師が往診や受診時に適切に主治医に伝達出来るよう密に連携が図れている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入退院や緊急時に迅速に対応出来るよう、日頃から密に報告・連絡・相談に努めている。入院時はこまめに面会へ行き本人の状態の把握に努め、入院の時重度化を防ぐために早期退院を掲げ、連絡を図れている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に本人と家族の想いを十分に理解し説明させて頂いている。また、重度化した場合や終末期を迎える前から密に家族と連絡を取り合い、事業所で出来る取り組み、主治医の意見など相談しながら対応に努めている。	
			(外部評価) 入居案内時に「医療が必要になったら退居となる」ことを家族に説明している。「事業所で最期まで」と希望する家族もいるが、最期は病院を選ぶような場合が多いようだ。法人代表者は、今後、希望があれば、看取りを支援できるような職員のメンタル面の研修等にも取り組みたいと考えていた。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 冷静かつ迅速に動けるように防災訓練を行っている。消防の方によるAEDの取り扱い説明や応急処置など訓練の中に取り入れ定期的に取り組んでいる。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害種別のマニュアルを作成し、迅速に対応が出来るよう努めている。また、年2回避難訓練と緊急連絡網を行い、実践力が身に付くよう努めている。 (外部評価) 4月には消防署の協力を得て日中の火災を想定した避難訓練を行った。2月には夜間想定避難訓練や通報訓練を行った。消防署からの資料をもとに内部研修を行ったり、運営推進会議時には、地域の方から山の中腹にある貯水池の決壊についての情報提供があった。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの想いを尊重し、人生の先輩として敬い、一人ひとりのプライバシー確保にも十分注意を図り努めている。 (外部評価) 管理者は、ミーティング時に「過剰な介護はしない」ことを職員に話している。更衣の際には自分で洋服を選べるように支援している。調査訪問時、昼食後の様子の中には、職員のペースで誘導等して支援するような場面がみられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 一人ひとりの表情や反応に十分観察を行い、本人の思いや希望に沿って、自己決定が一つでも多く出来るように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 意思表示ができる人、できない人にも肯定的に受けとめ、本 人のペースに合わせ支援出来るように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) 自分で着たい服を選べるよう支援している。また、外出やお 買いもの支援時には化粧をしておしゃれが出来るよう取り組 んでいる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜の皮むき等可能な範囲で職員と一緒に今日の食事へ の楽しみを語らいながら行っている。食事前の口腔体操も定 着し、日々楽しみにされている。 (外部評価) 調理専門の職員を配置しており、旬の食材を使って食事を 作っている。パンが好きな利用者には、朝食の主食はパンを 用意している。それぞれに箸や湯飲み等自分の物を使用し ている。重度で寝たきりの利用者には、起きている時を見計 らって食事できるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの状態に合わせ、普通食・きざみ食・ミキサー食 等にして提供し、汁や茶は、必要に応じてトロミを使用するな ど工夫や塩分や糖分の摂りすぎにも留意し、食器や箸・ス プーンの形状にも配慮している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 一人ひとりの状態に応じて口腔ケアの介助をし(全介助・一 部介助・声掛け等)口の渇きや口臭予防のため、マウス ウォッシュを使用しているまた不穏時などは無理強いせず、 夜間は、義歯のポリドントを使用している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			一人ひとり排泄パターンを把握し、時間を見計らって声掛けや、トイレ誘導を促し、自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(外部評価)	
			ポータブルトイレを認識できるようにトイレと表示していた。目のみえにくい方でも、トイレの手すりの位置を把握しやすいように、手すりに赤色のビニールテープを巻き、目立つように工夫している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			入居者と一対一で関われる大切な時間であり、本人に希望や要望を伺い楽しい時間を過ごして頂けるよう心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(外部評価)	
			2日に1回、午後から入浴できるよう支援している。利用者によっては、好みのシャンプーや洗身用タオルを用意している。入浴前には、利用者個々に浴槽で温まるかシャワー浴にするか聞き支援している。	
			(自己評価)	
			天気のいい日には散歩や外出を行い、日中の過ごし方を工夫し安心した睡眠が出来るように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員一人一人薬の作用を把握・理解して、服薬時は名前・日にち・食前食後・時間など何度も本人の顔を見て行い誤薬防止に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 入居者一人一人の能力を存分に生かして頂くために、外に新聞を取りに行ったり、掃除、洗濯等家事手伝いを職員と一緒に楽しく行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日には、近くの公園や川沿いに散歩に出かけ、ベンチでお茶をしたり、鯉に餌やりをして楽しい時間を過ごしている。また、一緒に買い物に出かけたり、季節の花をドライブして見に行ったり、本人希望やご家族の想い・要望を少しでも実現出来る様に心掛けている。 (外部評価) 車イスの利用者も職員が支援して、玄関前や近くをまわる等して外で過ごせるよう支援している。調査訪問時には、麦わら帽子をかぶった車いすの利用者が、職員と一緒に出かける様子が見られた。計画を立て季節に応じて、ぶどう狩りや花見等に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 事務所で保管・管理をしている。職員と一緒に買い物をする時は、利用者自身がお金を使えるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話を所持し、家族と連絡を取り合っている。電話や手紙のやりとりが可能な利用者については、希望があれば対応している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 四季に応じて花を育てたり、行事に合わせてリビングの飾りを替え、季節感を味わって頂けるよう努めている。また、飾りは職員と一緒に制作し作る過程から楽しんで頂けるよう取り組んでいる。共有スペースは清潔、整理整頓に努め安心して生活して頂けるよう努めている。	
			(外部評価) 玄関までのアプローチには、花や緑を整備している。室内は職員が掃除を行っており、行き届いていた。テレビと並んで窓際にソファを置いており、冬場は窓から陽が入り、背中があたたかいようだ。テーブル席のほかに、カウンター前に長テーブルがあり、調査訪問時には職員が食事をしていた。	さらに、職員は、寝たきりの利用者も居間で皆と過ごすような時間を持てるよう支援したいと話していた。利用者個々がくつろいで過ごせるような空間作りに向けて、配置や雰囲気作りに工夫してほしい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 一人一人の状態を把握してテーブルや椅子に座る位置などに配慮して本人が安心して過ごせるよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 家族の方に相談・確認をしながら自宅で使用していた家具・寝具・大切な置き物など、実際使用していた物で居室の空間作りをし、穏やかな気持ちで、落ち着いて過ごしていただけるよう配慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 訪問リハビリの指導のもと、カレンダーにリハビリメニューを記入して取り組んでいる方がいる。家族来訪時には座って話ができるようパイプイスを用意している。写真や誕生日プレゼント等を貼っている方もいる。	
			(外部評価) 本人の能力を存分に発揮して頂くために、出来る事・出来ない事を職員全員が情報共有し楽しく・穏やかに過ごして頂けるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 本人の能力を存分に発揮して頂くために、出来る事・出来ない事を職員全員が情報共有し楽しく・穏やかに過ごして頂けるよう努めている。	
			(外部評価) 本人の能力を存分に発揮して頂くために、出来る事・出来ない事を職員全員が情報共有し楽しく・穏やかに過ごして頂けるよう努めている。	